
B'AI Global Forum

2022 年度 活動報告書

2023.05.15.

目次

ご挨拶-----	2
研究概要-----	3
2022 年度の主要成果-----	5
プロジェクト-----	6
メディア表現とダイバーシティを抜本的に検討する会 (MeDi) -----	6
研究シリーズ「レジヤールにおける格差・差別・スティグマ」-----	7
BAIRAL プロジェクト-----	8
書評会 B'AI Book Club-----	9
Trauma Reporting 研究会-----	10
授業・教育関係-----	11
共同研究-----	12
フィールドトリップ-----	12
研究の発表状況-----	13
今後の研究のための対話-----	15
別紙 1. B'AI Global Forum の 2022 年度タイムライン-----	16
別紙 2. B'AI Global Forum の 2022 年度メンバー-----	17

ご挨拶

B'AI グローバルフォーラムは 2020 年 7 月 30 日に発足し、丸 3 年経とうとしています。B'AI は平等社会とマイノリティの権利保障という社会目標を、AI が社会のあらゆる局面に浸透する時代に、いかにによりよく実現していくかを研究と教育活動の主眼としています。この報告書は 2022 年 4 月から 2023 年 3 月までの 3 年目の研究・教育活動をまとめたものです。

2022 年度の最大の成果は、『AI から読み解く社会一権力化する最新技術』を東京大学出版会から出版できたことと思います。B'AI グローバルフォーラムのメンバーを中心に、総勢 20 名ほどの方々の論考をまとめたものです。人文社会科学系の観点から AI 技術を考察することの必要性和重要性を訴える一冊になったと自負しております。

また、これまで新型コロナウイルスの影響で対面の活動が制限されておりましたが、2022 年度は海外渡航が可能になり、国内外の研究者との対面の交流ができるようになったことは喜びでした。AI を用いた文章や画像の自動生成技術が脚光を浴び、私たちも手軽に扱えるようになりましたからには、すべての人が恩恵を受けられる技術になるよう産学官民でますます議論を深めていければと考えております。

2023 年 5 月

B'AI Global Forum ディレクター 板津 木綿子

研究概要

B'AI Global Forum (ビー・エイアイ グローバル・フォーラム) とは

- AI 時代における真のジェンダー平等社会の実現とマイノリティの権利保障のための規範・倫理・実践研究を行うグループ
- 東京大学とソフトバンクが共同で立ち上げた「Beyond AI 研究推進機構」の中の「AI と社会」部門に位置
- 名称の「B'」には、AI 以前の言論・表現空間の歴史 (before)、AI 発展の背後の利害 (behind)、下部構造 (beneath) など、AI 等の技術を取り巻く歴史やそれを支える社会構造を多角的に考察していこうという意味が込められている。

運営チーム

- 板津木綿子 東京大学大学院情報学環教授 (ディレクター)
- 林香里 東京大学大学院情報学環教授
- 矢口祐人 東京大学大学院情報学環教授
- 伊藤たかね 東京大学大学院情報学環特任教授
- 久野愛 東京大学大学院情報学環准教授

活動拠点

- オフィス：B'AI Room (東京大学浅野キャンパス工学部 12 号館)
- 公式ウェブサイト：日本語版 <https://baiforum.jp>
英語版 <https://baiforum.jp/en/>
- SNS など：Twitter <https://twitter.com/BAIforum>
Facebook <https://www.facebook.com/baiforum/>
YouTube <https://www.youtube.com/@baiglobalforum9317>

研究期間

- 予定期間：2020年7月30日～2030年3月31日
(本報告期間：2022年4月1日～2023年3月31日)

研究課題

- B'AI Global Forum は、ジェンダー平等社会とマイノリティの権利保障という社会目標を、AIが社会のあらゆる局面に浸透する時代に、いかにによりよく実現していくかを主眼としている。現代、経済格差やジェンダーや人種／民族などに基づく差別が止む気配はなく、課題は山積している。とりわけ、2020年新型コロナウイルスの感染拡大以降、政治、経済、文化など社会の活動において、デジタル技術を利用したコミュニケーションの比重が格段に増す中、経済格差やジェンダー、人種／民族などに基づく差別は、一層助長されていく例が世界各地で報告されている。このプロジェクトは、こうした社会問題の克服を目指し、市場原理ならびに一方的な科学技術の発達を最優先させてきた近代の諸制度や価値観を根本から問い直し、現状の社会の諸制度や組織構造の成り立ちを解明していく。さらに、AIなどの先端技術が、あらゆる人の生に貢献する技術となるよう、多様な分野からの研究者、実務家、ジャーナリスト、市民たちとともに、現状の課題を見出し、その解決を模索、提案していく。

2つの目標

- AIをはじめとするデジタル情報技術と社会の関係を反省的かつ批判的に解明すること
- 言論・表現空間の公正性を実現すること

4つのテーマ

- AIをはじめ、デジタル情報技術による女性やマイノリティへの差別・暴力の解明
- AIをはじめ、デジタル情報技術による多様かつインクルーシヴなメディア表現空間の設計
- 若手研究者を中心としたAIをめぐる文理融合・産官学民協働グローバル・フォーラムの創設
- デジタル情報化時代の倫理の再考、およびそれに基づくインクルーシヴ教育の実践

2022 年度の主要成果

編著出版

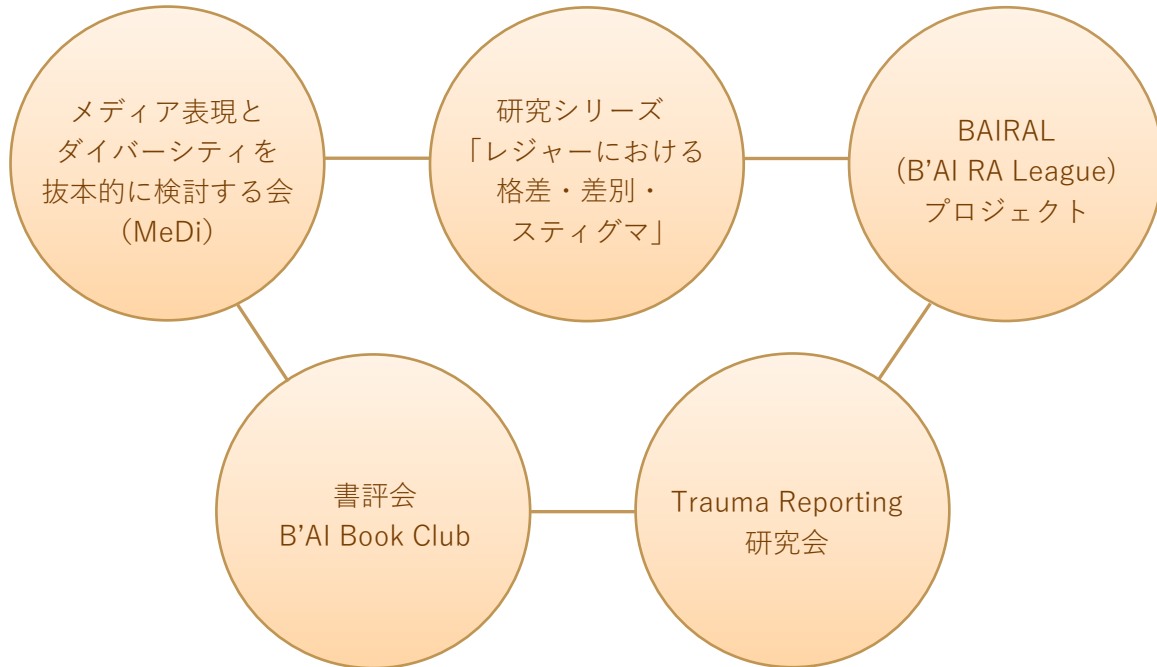
- 今年度の最も大きな成果は、編著『AI から読み解く社会——権力化する最新技術』（東京大学出版会）を刊行したことである。本書は、プロジェクト立ち上げから3年目に、これまでの活動から得た知見とネットワークを総括する形で生まれた成果物と言える。自然言語処理、VR、ジャーナリズム、身体感覚、歴史、ポピュラーカルチャー、フェミニズムなど、多様な分野の研究者がそれぞれの問題意識から AI と社会について論じており、人間と AI のより良い共存に向けた社会全体での議論を促そうとする B'AI Global Forum の目標が本書の構成にそのまま反映されている。2023 年度には、本書を契機として、理系の研究者や開発者側、若い世代などを包摂するさらなる対話の場をつくっていく予定である。



若手メンバーの増加

- B'AI Global Forum の活動が軌道に乗り、対外イベントや教育関係などのアウトリーチ活動が増えるにつれて、学生からも高い関心が寄せられた。人文社会科学やアートの観点から AI に興味をもつ学生たちの参加希望を受けて、B'AI では新たに「院生メンバー」の枠をつくり、2022 年度には東京大学大学院学際情報学府修士課程の 4 名をメンバーとして迎え、各種イベントやフィールドワークなどに積極的に参加してもらった。さらに、AI と社会という分野におけるグローバルな研究交流を強化すべく、海外の若手研究者を客員研究員として招き入れ、今後、多様な形でコラボレーションしていくための土台を整えた。

プロジェクト



メディア表現とダイバーシティを抜本的に検討する会 (MeDi)

- MeDi は、テレビ、新聞、インターネットなど、さまざまな媒体上の公正な表現のあり方を考える産学共同研究グループである。メディアの表現は、日常生活の規範をつくるほどの影響力があるだけに、不適切な表現は人権問題にもなり、職場や学校での差別やいじめ、ハラスメントにつながっているという指摘もある。MeDi では、こうしたメディアの諸問題を指摘するとともに、世界の研究者や実務家と連携しながら、現代デジタル情報社会の積極的な可能性と今後の課題を模索する。（<https://www.medi-gender.com>）
- MeDi では、メディア現場で働く記者、ディレクター、編集者らを対象に、様々なテーマの報道におけるジェンダー表現の問題点やその改善策について実例を交えながらみんなで議論するワークショップを実施している。2022 年度には、5 月 8 日にワークショップ「性暴力報道を考える」を開催。登壇者として、B'AI Global Forum のもう一つのプロジェクト「Trauma Reporting 研究会」の座長を務めるジャーナリストの河原理子氏と性暴力被害当事者ら団体である一般社団法人 Spring 代表理事の佐藤由紀子氏をお招きし、現在の性暴力報道が抱える課題や性暴力根絶に向けたより良い報道のための取り組みなどについて活発な議論を行った。

- 2023年1月、MeDiメンバーによる書籍『いいね! ボタンを押す前に——ジェンダーから見るネット空間とメディア』（亜紀書房）が刊行された。『足をどかしてくれませんか。——メディアは女たちの声を届けているか』（2019）に続く2冊目である。本書では、誰もが情報発信者となっている今日、その土台であるネット空間がどのような仕組みで動いているのかを解説し、ネットをみんなにとって心地良い場所にするためには表現においてどんな点に気をつければいいのかをジェンダーの視点から議論する。
- 2023年3月、『いいね! ボタンを押す前に』の刊行記念イベントが下記のように開催された。（いずれもハイブリッド開催。対面の会場は神保町の「読書人隣り」。）
 - 第一弾：2023年3月1日「わたしたちの知らないインフルエンサー」
 - 第二弾：2023年3月30日「伝統的メディアがネットに呑み込まれないためには」



研究シリーズ「レジャーにおける格差・差別・スティグマ」

- 今日、私たちのレジャー活動において、人工知能（AI）はすでに欠かせない技術になっており、私たちの社会との関わりや人間としての充足感の獲得に大きな影響を及ぼしている。しかし、余暇時間中のレジャー活動は、オンラインであれオフラインであれ、自由なレジャー活動を妨げる偏見やスティグマ、そして社会の差別の構造さえ映し出していることを忘れてはならない。このプロジェクトでは、私たちのレジャー活動のなかにいかに格差、偏見、スティグマが織り込まれていったかについて検証し、AIの技術活用がレジャーにおける格差、偏見、スティグマを知らず知らずのうちに再生産や強化しないよう、その批判眼を養っていく。
- 2022年度には、レジャースタディーズ研究会・余暇ツーリズム学会との共催で、以下の研究会が開催された。
 - 日時：2022年8月4日（オンライン開催）
 講師：鮎川ぱて氏（東京大学先端科学技術研究センター身体情報学分野稲見研究室協力研究員／東京大学教養学部非常勤講師）
 テーマ：テクノロジーがもたらす「新しい搾取」に抗する——Vチューバーと「身体の客体化」をめぐる問題

BAIRAL プロジェクト

- BAIRAL (B'AI RA League) は、B' AI Global Forum の若手リサーチアシスタント (RA) による自主研究会で、AI と社会の関係について、理論・実践の両側面から検討している。人工知能は私たちの日常生活において様々な応用可能性を示している反面、これまでには見られなかった複雑な権力やリスクの問題も生み出している。新たな技術が拡がりを見せる現代において、政治・社会・文化の問題を批判的に理解し、マイノリティを含む人間の尊厳や自由を議論するためには、個々の研究分野を超え、より多様な観点を取り入れる機会が必要だ。そこで BAIRAL では、議論のための開かれたネットワークを構築すべく、毎月様々な研究・実践領域で活躍されているゲストスピーカーをお招きし、研究会を開催している。
- 2022 年度には、以下のように 10 回の研究会が開催された。
 - 2022 年 4 月 27 日「VR は人をどこまで共感させるか? ——その限界と使い方」(東京大学大学院学際情報学府修士課程 工藤龍氏; 東京大学大学院学際情報学府博士課程 畑田裕二氏)
 - 2022 年 5 月 26 日「国際政治と AI ——サイバーセキュリティからキラーロボットへ」(立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科博士後期課程 佐藤仁氏)
 - 2022 年 6 月 29 日「ビジネス領域における社会科学研究の活用」(Sansan 株式会社 前嶋直樹氏)
 - 2022 年 7 月 19 日「「テクノロジーと社会の関係」から考える、文化資源の教育現場へのストック&フロー化」(東京大学大学院学際情報学府博士課程/TRC-ADEAC 株式会社特任研究員 大井将生氏)
 - 2022 年 9 月 7 日「仕事の可視化から身分の匿名化へ ——デジタル時代における日本の記者職の変容について」(パリ・シテ大学東洋言語文化学部日本研究学科准教授 セザール・カステルビ氏)
 - 2022 年 10 月 18 日「ema とは何者か? ——AI によって生成されたバーチャルボディを通して人種とジェンダーの表象を検証する」(東京大学大学院学際情報学府修士課程 ラウリー華子氏)
 - 2022 年 11 月 16 日「メタバースの可能性と課題 ——メタバース工学部開講を機に」(東京大学総長特任補佐/先端科学技術研究センター身体情報学分野教授 稲見昌彦氏)
 - 2022 年 12 月 16 日「デジタル人文学と AI ——固有性・共通性・偏りと向き合う」(東京大学大学院 人文社会系研究科准教授 大向一輝氏)

- 2023年2月3日「行為者性の共創——ソーシャルロボットの倫理的な設計の実践に向けて」
(理化学研究所革新知能統合研究センター特別研究員／情報学環佐倉研究室客員研究員 水上拓哉氏)
- 2023年3月3日「SF プロトタイピングの話かそうではない話」 (SF 作家 樋口恭介氏)

書評会 B'AI Book Club

- B'AI Book Club は、AI やアルゴリズムなどの情報テクノロジーを批判的な観点から考察した海外の文献を読み議論する書評会である。AI が人間社会の隅々まで浸透している今日、その技術が必ずしも中立公正に働き、その恩恵が全ての社会構成員に平等に行き渡るわけではないということが日本でも指摘されつつある。ただ、そのような問題意識が芽生え始めたのは海外の方が遥かに早く、それだけに議論も活発で研究実績も豊富に積み上げられている。そこで、まだ日本に紹介されていない文献を読むことで海外の研究動向を把握するとともに、AI の開発・利用に潜む権力の問題、科学技術に内在するマスキュリティの問題などについて議論する場をつくるべく、2021 年度からの新たなプロジェクトとして B'AI Book Club を立ち上げた。本の読み方としては、単純に書かれている内容を理解して終わるのではなく、著者のバックグラウンドや本が書かれた社会的文脈、その本の当該研究分野での位置づけなどを総合的に検討しつつ批判的に読み込むため、「書評」という形を取っている。
- 2022 年度には、以下のように 9 回の書評会が開催された。
 - 2022 年 4 月 26 日 Erik J. Larson (2021) *The Myth of Artificial Intelligence: Why Computers Can't Think the Way We Do*, Harvard University Press. (評者：板津木綿子)
 - 2022 年 5 月 31 日 Ricardo Baeza-Yates (2018) *Bias on the Web*, *Communications of the ACM* 61(6): 54-61. (評者：佐野敦子)
 - 2022 年 6 月 28 日 Gary Marcus and Ernest Davis (2019) *Rebooting AI: Building Artificial Intelligence We Can Trust*, Vintage. (評者：伊藤たかね)
 - 2022 年 7 月 26 日 Paul Roquet (2022) *The Immersive Enclosure: Virtual Reality in Japan*, Columbia University Press. (評者：加藤大樹)
 - 2022 年 9 月 27 日 Brian Christian (2020) *The Alignment Problem: Machine Learning and Human Values*, W. W. Norton & Company. (評者：金佳榮)

- 2022年11月11日 Enid Mumford (2006) The Story of Socio-Technical Design: Reflections on Its Successes, Failures and Potential, *Information Systems Journal* 16(4): 317–342. (評者：佐野敦子)
- 2022年12月20日 Tula Giannini and Jonathan P. Bowen, eds. (2019) *Museums and Digital Culture: New Perspectives and Research*, Springer Cham. (評者：大月希望)
- 2023年2月28日 James A. Banks (2016) *Cultural Diversity and Education: Foundations, Curriculum, and Teaching (6th Edition)*, Routledge. (評者：大井将生)
- 2023年3月22日 (特別編) B'AI Global Forum・板津木綿子・久野愛編著 (2023) 『AI から読み解く社会——権力化する最新技術』 東京大学出版会. (評者：久野愛)

Trauma Reporting 研究会

- Trauma Reporting 研究会は、公正な言論空間を作っていくための取り組みの一環として 2021 年度に立ち上げたプロジェクトである。ジャーナリストで東京大学大学院情報学環特任教授の河原理子氏が座長を務めるこの研究会では、取材経験者やジャーナリズム研究者らが集まり、事件事故や(性)暴力の被害者、災害の被災者、戦争や紛争の生存者など、心身にダメージを負った傷つきやすい人たちの話を取材し社会に伝える際に必要な知識を学び、課題を共有するとともに新たな道筋を探っていく。
- 2022 年度には計 10 回の研究会を実施 (2022 年 4 月 23 日、5 月 28 日、6 月 19 日、7 月 31 日、8 月 28 日、10 月 9 日、10 月 22 日、11 月 6 日、2023 年 1 月 29 日、2 月 18 日)。うち 2 回は、取材する側と取材を受ける側、それぞれをゲストとして招いて勉強会をし、あとの 8 回は、前年度に続き、イギリスの本 *Trauma Reporting: A Journalist's Guide to Covering Sensitive Stories* (Jo Healey, 2019)を読み進めた。

授業・教育関係

授業

- 2022年7月20日～8月2日、東京大学 Global Unit Courses で、板津木綿子が学部生向けのサマープログラム「AI and Social Justice」を計10回実施した。プログラムは主に海外の学生向けで展開された。
- 2022年6月15日～7月27日、東京工業大学で、治部れんげが修士課程学生向けの講義「文系エッセンス・未来社会論」を計7回実施した。リーダーシップをテーマにダイバーシティ、地域創生、テクノロジーと平和構築などを扱った。
- 2022年12月8日～12月26日、東京工業大学、治部れんげが学部3年生向けの講義「未来社会論C」を計6回実施した。働き方の未来を考える講義で、AIを含むテクノロジーと働き方の変化なども扱った。
- 佐野敦子が、立教大学21世紀社会デザイン研究科後期授業として「『デジタル化』と社会デザイン」を担当した。
- 2023年1月27日、金佳榮が静岡大学情報社会学科の学部生向けジャーナリズム論授業で「AIとジャーナリズム」をテーマにゲスト講義を行った。

B'AI 主催の講演会

- 2022年8月8日、Beyond AI 研究推進機構の後援を受け、バージニア大学の Aynne Kokas 准教授による講演会「Trafficking Data: How China is Winning the Battle for Digital Sovereignty」を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。
- 2022年9月28日、東京大学大学院情報学環 ITASIA コースとの共催で、ジョージ・メイソン大学の Justin Gest 准教授による講演会「Majority Minority: How Do Societies Respond to Demographic Change?」を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。
- 2022年10月17日、Beyond AI 研究推進機構の後援を受け、オックスフォード大学社会科学部ポストドクトラルリサーチャーの Lulu Shi 氏による講演会「The Future(s) of Unpaid Work: How Susceptible Do Experts from Different Backgrounds Think the Domestic Sphere Is to Automation?」を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。
- 2022年12月6日、Beyond AI 研究推進機構の後援を受け、マッコーリー大学 Senior Lecturer の Richard Carter-White 氏とカタルーニャ・オベルタ大学ポストドクトラルリサーチャーの Maartje Roelofsen 氏による講演会「Embodiment, Deferral and (Dis)inhibition: Learning and Teaching Geography with VR」を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。

共同研究

- 東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構の横山広美教授研究室と共同で、「AI 利用の意識に関する4か国調査」を実施している。AI の研究・開発が進み、様々な意思決定プロセスに導入されつつある中、AI が不公正を拡大しないよう、AI の研究者や開発者は平等意識をもつことが求められる。本研究では、日本・アメリカ・ドイツ・韓国的一般市民を対象に、性別・障害・性的指向・移民に対する平等意識が、AI 利用の問題意識とどのように関係するかを調べる。2021 年度にデータ収集が完了し、2022 年 2 月 1 日に開催された第 23 回 Beyond AI 研究セミナーにて、横山教授と金沢大学の一方井祐子准教授が中間報告を行った。2022 年度にはデータの分析が完了し、その結果に基づいて論文の執筆が進んだ。研究の最終成果は 2023 年度中に投稿する予定である。



フィールドトリップ

日本科学未来館

- 2022 年 5 月 21 日、東京都江東区にある日本科学未来館の特別展「きみとロボット ニンゲンッテ、ナンダ？」をメンバー有志で訪問した。同展には、B'AI メンバーの佐倉統、江間有沙、長井志江が監修者として関わっており、展示見学後、佐倉のオーガナイズで企画を担当した同館サイエンスコミュニケーターらと議論を行った。



ソフトバンク本社

- 2022 年 11 月 16 日、板津木綿子ら 7 人のメンバーが東京ポートシティ竹芝にあるソフトバンク本社を訪問した。スマートビルとしてデザインされた本社オフィスを見学し、AI 戦略室 AI プロジェクト推進部の中川栄治部長ら 4 人と、AI における倫理とガバナンス、そしてダイバーシティ&インクルージョン実現のための取り組みについて議論した。



研究の発表状況

(※本報告書には主要なもののみ掲載する。)

書籍

- B'AI Global Forum・板津木綿子・久野愛編著（2023）『AI から読み解く社会——権力化する最新技術』 東京大学出版会.
- 李美淑・小島慶子・治部れんげ・白河桃子・田中東子・浜田敬子・林香里・山本恵子（2023）『いいね! ボタンを押す前に——ジェンダーから見るネット空間とメディア』 亜紀書房.
- 水越伸・飯田豊・劉雪雁（2022）『新版 メディア論』 放送大学教育振興会.
- 佐野敦子（2022）「ジェンダー平等な AI 社会をデザインするには」 萩原なつ子 監修、萩原ゼミ博士の会 著、森田系太郎 編集『ジェンダー研究と社会デザインの現在』 三恵社.
- Misook Lee (2022) Marginalizing the Reporting of #MeToo 2.0 with Structural Bias in Japan, Edited by Andrea Baker and Usha Manchanda Rodrigues, *Reporting on Sexual Violence in the #MeToo Era*, Routledge.

論文

- Ikkatai, Y., Hartwig, T., Takanashi, N., & Yokoyama, H. M. (2022). Segmentation of ethics, legal, and social issues (ELSI) related to AI in Japan, the United States, and Germany. *AI and Ethics*, 1-17.
- Tali Aharoni, Keren Tenenboim-Weinblatt, Neta Kligler-Vilenchik, Pablo Boczkowski, Kaori Hayashi, Eugenia Mitchelstein, Mikko Villi. (2022) Trust-oriented affordances: A five-country study of news trustworthiness and its socio-technical articulations., *New Media and Society*, 1-19.
- 板津木綿子（2022）「AIが映し出す「環」」 東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究 102 号、pp.i-iii.

口頭発表（学会、シンポジウムなど）

- Saki Mizoroki, Limor Shifman, Kaori Hayashi “Hashtag Activism Lost in Translation: The Reformulation of #MeToo in Japan,” International Communications Association (ICA), Paris/Virtual, May 26-30, 2022.
- 水越伸「メディア研究者はいかに GAFAM に立ち向かうか」日本広告学会関西部会第 5 回研究会、関西大学千里山キャンパス、2022 年 6 月 25 日.
- 板津木綿子「AI の文化政治学——消費者として、市民として」東京大学次世代知能科学研究センター連続シンポジウム第 10 回「文明・文化の視点から考察する、人間と AI の関係」2022 年 7 月 27 日.
- 佐野敦子「デジタル時代におけるジェンダー平等の実現に向けて」日本女性監視機構：JAWW CSW67 勉強会、オンライン、2022 年 9 月 20 日.
- Yuko Itatsu “The Geopolitics of AI Research: A Call for APAC AI Studies,” Expert speaker series. Digital Media Research Center, Queensland University of Technology, September 20, 2022.
- 佐野敦子「デジタル時代のジェンダー平等実現に向けて——女性運動からみる AI の可能性」第 39 回 BAI 研究セミナー、2022 年 10 月 18 日.
- Yujin Yaguchi, Panel Discussion on AI and higher education, Rome Call for AI Ethics: A Global University Summit, University of Notre Dame, South Bend, Indiana, October 26, 2022.
- Ai Hisano and Yuko Itatsu, Poster Session, Rome Call for AI Ethics: A Global University Summit, University of Notre Dame, South Bend, Indiana, October 26 and 27, 2022.
- Kaori Hayashi and Yuko Itatsu, Panel Discussion “Gender and Artificial Intelligence: Striving for Social Justice and Protection of Rights in the Age of AI,” Northwestern University, Buffet Institute for Global Affairs, October 28, 2022.
- Shin Mizukoshi “Metaphorical Understanding of Digital Media: Toward a Three-Dimensional Media Literacy,” The 13th Association for Cultural Studies (ACS) International Crossroads in Cultural Studies Conference, online, November 17-19, 2022.
- 佐野敦子「パネルディスカッション デジタル時代におけるジェンダー平等の実現に向けて」（モデレータ兼パネラー）NWEF フォーラム WS（日本女性監視機構：JAWW）、2022 年 12 月 19 日.

展示

- 院生メンバーのラウリー華子が、AI を用いた人種構造を批判するアートプロジェクト“ema NEW FACE”を、大学院情報学環主催の東京大学制作展 2022 Emulsion（2022 年 11 月 18 日～21 日）にて展示。<https://www.iiiexhibition.com/>

今後の研究のための対話

ソフトバンク

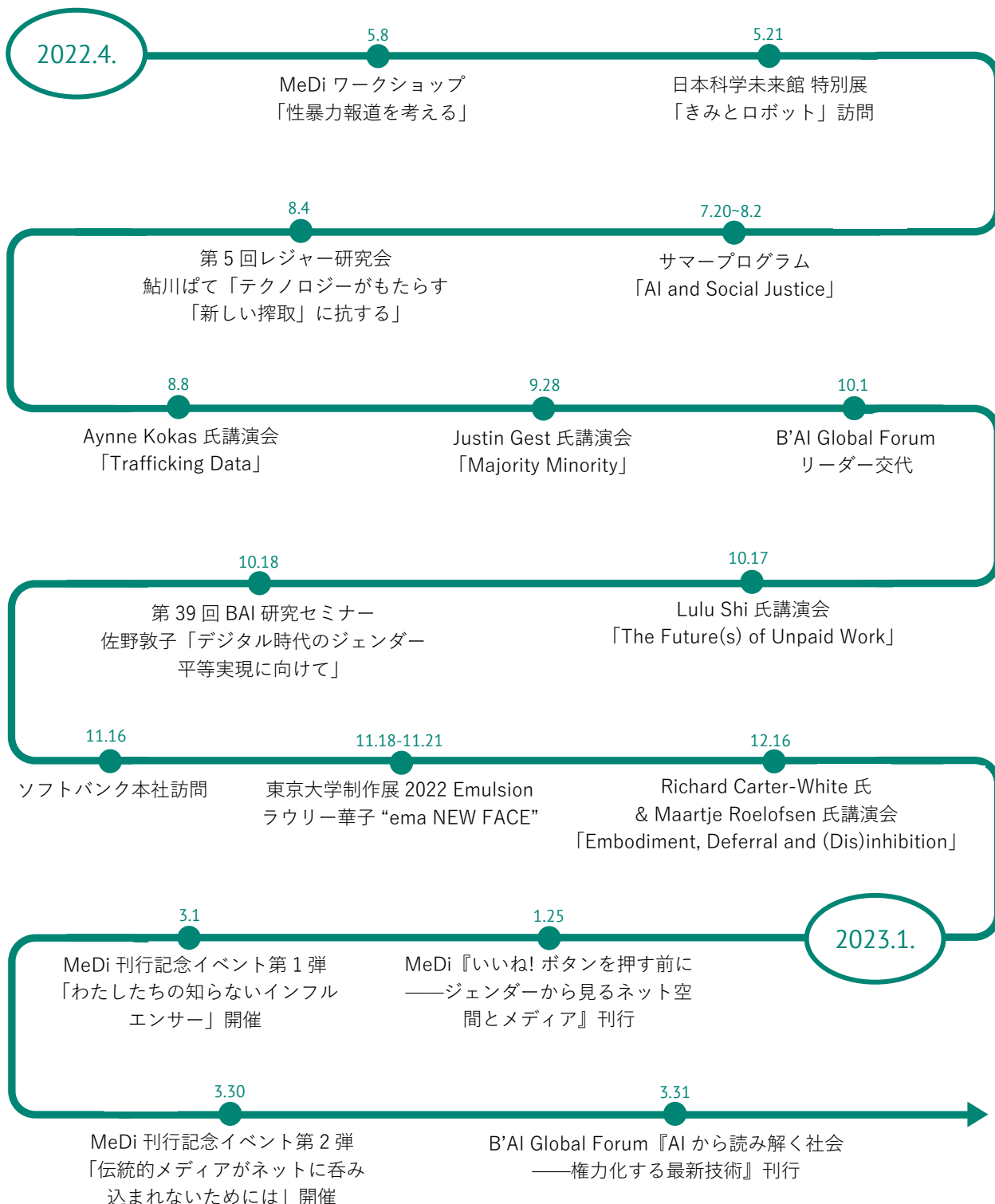
- 2022 年度は、ソフトバンク側との交流が多様な形で活発に行われた。ソフトバンク株式会社テクノロジーユニット AI 戦略室との定期的なミーティングが開始されたほか、ソフトバンク AI 倫理ポリシー案に B'AI の林と板津が助言（AI 倫理ポリシーの最終版が 2022 年 7 月 12 日に公式リリース）、また 11 月には B'AI メンバーが東京ポートシティ竹芝にあるソフトバンク本社を訪問し、AI 倫理に関するさらに深い議論を行なった。対話を重ねる中で今後の共同研究につながるようなアイデアも出ており、2023 年度以降、実現に向けて具体化していく予定である。

日本科学未来館

- 2022 年 5 月に日本科学未来館の特別展「きみとロボット ニンゲンッテ、ナンダ？」を訪問したことを契機として未来館側との交流が始まった。2022 年 12 月からは月 1 回の定例ミーティングを実施しており、科学と社会に関する様々な論点について研究者とサイエンスコミュニケーターがそれぞれの知見を共有しながら議論を行なっている。2023 年度中に座談会やワークショップなどの共催イベントを開く方向で対話を進めている。

B'AI Global Forum の 2022 年度タイムライン

(※月 1 回ペースで開催される BAIRAL、B'AI Book Club、Trauma Reporting 研究会は省略)



別紙 2

B'AI Global Forum の 2022 年度メンバー (2023 年 3 月現在)

役割	氏名	所属機関・部局・役職	備考
運営チーム	板津木綿子	東京大学大学院情報学環・教授	ディレクター
	林香里	東京大学大学院情報学環・教授	
	矢口祐人	東京大学大学院情報学環・教授	
	伊藤たかね	東京大学大学院情報学環・特任教授	
	久野愛	東京大学大学院情報学環・准教授	
研究分担者	江間有沙	東京大学未来ビジョンセンター・准教授	
	佐倉統	東京大学大学院情報学環・教授	
	水越伸	関西大学社会学部メディア専攻・教授；東京大学大学院情報学環客員教授	
	河原理子	ジャーナリスト 東京大学大学院情報学環・特任教授	Trauma Reporting 研究会 座長
	越塚登	東京大学大学院情報学環・教授	
	Miles Pennington	東京大学生産技術研究所・教授	
	大西晶子	東京大学相談支援研究開発センター・教授	
	田中東子	東京大学大学院情報学環・教授	MeDi*
	李美淑	東京大学大学院情報学環・准教授	MeDi
	横山広美	東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構・教授	
	高梨直紘	東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム室・特任准教授	
	ティルマン・ハートウィグ	東京大学知の物理学研究センター・助教	
	特任研究員	金佳榮	東京大学大学院情報学環・特任研究員
佐野敦子		東京大学大学院情報学環・特任研究員	
研究員	小島慶子	エッセイスト；東京大学大学院情報学環・客員研究員	MeDi
	治部れんげ	ジャーナリスト；東京工業大学リベラルアーツ研究教育院・准教授	MeDi
	山本恵子	NHK 名古屋拠点放送局報道部副部長 東京大学大学院情報学環・客員研究員	MeDi
	白河桃子	ジャーナリスト；昭和女子大学・客員教授；相模女子大学大学院・特任教授；東京大学大学院情報学環・客員研究員	MeDi

	章蓉	中国同済大学浙江学院社会科学部・准教授；東京大学大学院情報学環・客員研究員	
	田中瑛	九州大学大学院芸術工学研究院社会包摂デザイン・イニシアティブ・助教；東京大学大学院情報学環・客員研究員	
	アルノー・クラス	関西大学社会学部・ポストドクトラル研究員；東京大学大学院情報学環・客員研究員	
学外協力者	浜田敬子	ジャーナリスト；一般社団法人デジタル・ジャーナリスト育成機構代表理事	MeDi
	三浦まり	上智大学法学部・教授	SAYFT**
	三品由紀子	電気通信大学大学院情報理工学研究科・准教授	
	一方井祐子	金沢大学人間社会研究域人間科学系地域創造学類・准教授	
リサーチ・アシスタント	大月希望	東京大学大学院学際情報学府・博士課程	
	大井将生	東京大学大学院学際情報学府・博士課程	
院生メンバー	スエダ・マシュー	東京大学大学院学際情報学府・修士課程	
	ラウリー・華子	東京大学大学院学際情報学府・修士課程	
	プリヤ・ム	東京大学大学院学際情報学府・修士課程	
	ウィル・グスマン	東京大学大学院学際情報学府・修士課程	
学術支援スタッフ	五十田みどり	東京大学大学院情報学環・学術専門職員	

*メディア表現とダイバーシティを抜本的に検討する会

** Safe Campus Youth Network Faculty Team